

がんばろう 南三陸町 復興第67号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
志津川広報センター
企画・編集 千葉伸孝

戸倉地区の二つの慰霊碑建立に亡き人々を偲んで台掌



西戸地区復興祈念公園

平成29年7月30日に南三陸町戸倉西戸地区に「東日本大震災犠牲者の鎮魂と追悼復興祈念碑」が建立され、遺族など約60人が出席して津波の犠牲となった49人の名前が刻まれた石碑の除幕式が行われた。西戸地区では8割にあたる75世帯が被災したが、多くの地区民が他の地区に移転した。

西戸地区の鎮魂と追悼復興祈念碑には津波の教訓が『天地が揺れたらより高い所へ(逃げること)』と記されている。

西戸祈念碑の記述より(要約)
平成23年3月11日の「東日本大震災」地震発生から40分後に西戸地区に大津波が襲来した。その津波は7mの高さに達した。

西戸上・下区は85世帯があり260人ほどの人々が生活していた。犠牲者は49名、家全壊74世帯となり、西戸生活改善センター(公民館)も全てが流出した。

西戸地区の中心地に西戸契約講所有地があり、犠牲者の鎮魂と追悼の場として、「震災復興祈念公園」を造成した。ご遺族各位と地域住民・他の地に移転した方々と共に、慰霊と交流の場としたい。

平成29年7月30日建立
西戸行政区・西戸契約講
西戸地区公民館・西戸川資源保存会(碑文より)

戸倉地区門内の慈眼寺さんの敷地に慰霊碑が平成28年8月に建立され、大地震を後世に伝えている。

慈眼寺さんの護寺会の檀家の90名が津波の犠牲となり、その方々の地区と名前が全て石碑に刻まれている。長く鎮魂の想いを地区民・護寺会会員がひきついでいく。

「東日本大震災慰霊碑」には、護寺会で犠牲となられた方々の御芳名を刻み、御霊を慰むると共に後世へこの未曾有の出来事を伝えるために、ここに慰霊碑を建立する。と、記されていた。平成28年8月

圓通山慈眼寺 住職 真光泰淳
護寺会会長 村岡賢一 役員一同

南三陸町内の震災後に建立された「慰霊碑」には、歌津地区の「鎮魂の森」には歌津地区で犠牲となられた119名の名前が刻まれている。



慈眼寺の墓地下に建立

館浜の「津龍院」さんにも、護寺会檀信徒の犠牲者名が刻まれた慰霊碑が寺の敷地に建立されている。志津川地区の細浦の徳性寺さんにも、檀家で津波の犠牲になった方々が石碑に刻まれている。松本石屋の社長さんが、大震災の記憶を後世に伝えたいと町内のお寺さんに寄贈した。

南三陸町の津波犠牲者は、30年度に完成予定の防災庁舎跡地周辺への「復興祈念公園」の整備建設が現在進み、町民の犠牲者の名簿を築山のモニュメント内に納める事で、津波犠牲者の鎮魂と追悼、そして大震災の記憶を後世に残す、そんな計画を町は進めている。

宮澤大造さんのジャガイモ支援

2012年から6年目の長野の野菜支援に感謝

今年も7月末に長野県飯島町の宮澤さんからの心を込め作ったジャガイモが被災地の皆様へと10袋が届いた。

南三陸町の災害公営住宅、戸建ても3月末には総て完成し、住宅再建の土地造成も各地域で次々と造成が完了し、住宅建設が急ピッチで進んでいる中で、未だ仮設での生活をしている方もいる。今回は志津川地区東工区の集合住宅の皆さんにチラシを配布し集まってもらった。

《第1回目配布8月4日》

「人が集まってくれるかな？」の不安の中、南三陸病院向かいの志津川東団地「災害公営住宅」では、ジャガイモ配布の午後1時半を前に、会場としたA・B棟の間の駐車場には、既に10名の方が待っていてくれた。3袋のジャガイモは全て1時半を待たずになくなり、社に戻り3袋を再度持って来た。2時には6袋が全て無くなった。

災害公営の皆さんに喜んでもらい、弊社社長も本浜・大森など昔の志津川の人達との会話に話しはずんでいた。支援の受け皿で、自分も本当に幸せな気持ちにさせて頂いた。

この団地の災害公営住宅には現在志津川地区に住んでいた方が自治会長をし、両棟の副自治会長さんが顔を見せてくれた。知っている方で「ジャガイモを送ってくれた方を教えて下さい。」と、宮澤さんにお礼状を出しますと、話していた。



《第2回目配布8月31日》

東団地E・F棟のじゃがいもの物資配布にも集合住宅の30名以上の住民の皆さんが集まって頂き、喜んでくれました。南三陸町の被災者の方で、被災して初めて物資貰いましたなど、皆さんから感謝されました。本当に被災7年目にもなるのに感謝いたします、と話す。住民の皆さんに変わり御礼を申し上げます。



午後1時半からの配布でしたが、1時には待っている方もあり、時間を待たず配布終了となりました。時間前に終了したことで、「配布は」と社に連絡が入り、丁寧にお詫びしました。また、物資が来た時に配布を致しますと伝えました。貰う人達の笑顔に、私は今後も活動の受皿を継続していきたいと思えます。

南三陸町人口の推移

(平成29年5月末現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22年3月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
23年3月	17,064	7,823	2,296	1,884	5,061
29年5月	13,380	5,387	1,490	2,044	4,459
増減数	-4435	-2907	-943	+137	-722
増減率	-24.9%	-35%	-38.8%	+7.2%	-13.9%
世帯数	4549	2055	490	622	1382
議員数	16人	2人	5人	4人	5人

※ 東日本大震災での南三陸町の2017年2月末現在の死者600人(関連死除く)、行方不明者212人となっている。

南三陸から結婚したい(婚活事業)
40代50代女性会員募集!(46-3069)

任期満了の南三陸町 町長・町議会議員の選挙日程

- 立候補説明会 9月28日
- 予備審査 10月6日
- 選挙告示 10月17日
- 選挙投票日 10月22日

南三陸町の議員定数は、合併前に志津川町18名、歌津町が15名で合併後のH17年11月に南三陸町議員数22名で新町議会がスタートした。

H19年9月に定数を減数する事を決定し、H20年11月に住民懇談会を開催、H20年12月に次回より議員定数を16名とする事を決定、H21年11月から現行の議員定数が16名となる。

H29年3月2日

議員定数の特別委員会を傍聴

山内(孝)委員長のもとで1番議員より議員定数の削減か、現状維持かを順に議員の考えを発表する(発表は削減か現状維持かを答えた)。
①後藤(伸)議員(削減)自分たちの声を町に届けてくれとの町民の声がある。
②佐藤(正)議員(現状)住民の懇談会の意見。
③及川議員(削減)議員の数の問題ではなく、議員の活動との町民の声がある。
④小野寺議員(現状)復興の現状で民意を伝えきれない。
⑤村岡議員(現状)。
⑥今野議員(現状)減らした分、議員報酬を上げるなら減少。
⑦高橋議員(現状)懇談会の声として新しい町づくりに必要。
⑧佐藤(宣)議員(現状)懇談会の声。
⑨阿部議員(削減)懇談会の参加者も少ない中で、現状維持は町民の総意ではない。町財源も厳しく議論すべき。
⑩山内

(昇)議員(現状)町民の声を尊重、新しい人材の確保。
⑪菅原議員(現状)若い人が議員に手を上げやすい環境を。
⑫西條議員(現状)地域のバランスを考える。
⑬後藤(清)議員(削減)
⑭三浦議員(現状)

※山内(孝)委員長と星議長は裁決に参加できず。

議場での傍聴を聞き取り、議員の発言をそのまま掲載しました。

県内町の27年の国調の人口と議員数(人口の類似町)

- 南三陸町 12,370人で16議員
 - 蔵王町 12,316人で16議員
 - 丸森町 13,972人で14議員
 - 山元町 12,315人で13議員
 - 村田町 11,501人で14議員
 - 涌谷町 16,701人で13議員
- (南三陸町議会事務局資料から)

みなみさんりく「議会だよりNo45」より

どうなる議員定数

平成29年3月2日各議員の意見陳述の後、採決が行われました。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
後藤伸太郎	佐藤正明	及川幸子	小野寺久幸	村岡賢一	今野兼紀	高橋宣次	佐藤宣明	阿部建	山内昇一	菅原辰雄	西條栄福	後藤清喜	三浦清人	山内孝樹	星喜美男
削減	現状維持	削減	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	削減	現状維持	現状維持	現状維持	削減	現状維持	採決に参加せず	議長のため採決に参加せず

結果 議員定数は現状維持の16名とすることに決定しました。

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成29年(2017年)
～ 地元報道より ～

5月の出来事

南三陸町

- ◆2日安倍首相が吉野復興新大臣と共に、南三陸町の復興を視察する。
- ◆三陸ワカメが高値を維持して終了した。入札ではワカメの数量が減っても金額は増加した。塩蔵(芯抜き)で、10k当たり1万629円で、昨年よりも約2300円を上回った。
- ◆4月30日「ほやまつり福興市」で1袋500円のおまけ放題に200人が列をつくった。志津川湾の「ほや」が大人気だった。
- ◆衆議院宮城小選挙区の南三陸町の区割り、気仙沼・登米市の6区から石巻市圏域の5区に編入される。佐藤町長は政府に反対の申し入れをした。
- ◆5日歌津のヒツジ牧場「さとうみファーム」で、ひつじの毛刈りショーが行なわれた。
- ◆2002年の竹川原の工務店経営・佐藤茂義さんと妻の強盗殺人事件から、15年を迎え、南三陸署は情報提供を呼び掛けている。

南三陸町の災害公営住宅の整備が16年度末で完了した。集合と戸建てで738戸で総額では199億円で、資材・人件費の高騰を見込んでいたが、1割約18億円の減額となった。1戸当たりの整備費は2700万円となった。

- ◆登米市迫町ソフトボール協会主催の春季女子ソフトボール大会で、志津川・鹿折中の合同チームが優勝し、7月の県総体にはずみをつけた。合同チームは、志津川7人と鹿折11人。

環境省は青森から福島までの三陸復興祈念公園内に設置する「みちのく潮風トレイル」の、歌津石泉から神割崎まで38kmの「南三陸ルート」が開通した。全区間は全長で700kmにもなる。

- ◆歌津地区の伊里前小学校の3年生17人がふる

南三陸町と気仙沼市の復興の進捗と問題を比較して見れます。

5月の出来事

気仙沼市

- ◇気仙沼の障害者就業・生活支援センター「かなえ」の利用者が増加している。昨年度の登録者数は319人で相談件数は過去最高の約5600件となった。協力企業が徐々に増加している。
- ◇気仙沼市の16年度観光客の入込数は、全体では135万人で宿泊客が1.2倍と増加した。

気仙沼市は第3子以上の入学に、1人3万円の祝い金支給を始める。今年度からスタートし、市は約80人を見込む。

- ◇気仙沼市立大島中野球部は、全国離島交流野球大会へは、架橋完成により出場資格を失う事から、最後の「離島甲子園」となる。部員は15人で3回目の出場に参加費への寄付を募っている。
- ◇気仙沼市の市議の政務活動費の使途などがHPで初公開され、ほとんどが県外への宿泊や交通費で、昨年は交付額の4割にあたる105万円が各会派の県外視察に使われた。気仙沼市議会の政活費は月1人当たり1万円が交付される。
- ◇気仙沼市の「子育て世代包括支援センター」への相談が半年で300件にのぼった。子供たちの人口が減少している中でも、家族利用も増加傾向にある。
- ◇9日午後2時頃に大谷郵便局に軽自動車があふかった。南三陸町本面に向うトラックが車道を逸脱し、局から出ようとしていた軽自動車

と学習で、伊里前川のシロウオ漁について学んだ。

- ◆11日に歌津皿貝の製材所から出火し、山林にも延焼となった。午後4時57分の帰宅時間と重なり、国道は大渋滞となった。午後7時時点でも鎮火しておらず、歌津地区の500戸が停電した。
- ◆歌津地区に15日「アイルーム歌津」として、ホテルが開業する。観光客の増加が期待されている。シングル43室とダブルが3室の計46室。料金はシングルが一泊6200円からとなっている。
- ◆南三陸町の西宮神社の参道にツバキを植樹した。津波の避難の「道しるべ」にと、西宮ロータリークラブが贈った。
- ◆第63回三陸弓道大会で、団体一般で志津川弓道会が優勝した。大会には88選手が参加し、団体高校の部で志津川高校が準優勝し、個人では高校男子で②佐藤歩夢(志津川)、一般の部では①高見里奈③高橋長泰が入った。
- ◆14日「つつじ満開！しろうおまつり福興市」が、歌津の「ハマレ歌津」で開催された。雨の中ながら2年ぶりの「しろうおまつり」の躍り食いが人気を集めた。
- ◆14日第23回南三陸町「たつがねMTB(マウンテンバイク)大会」が、90選手が参加して、濃霧の悪条件の中でも、激走し順位をきそった。山形からビギナーズレディース部門に初参加の小川優香里さんが初優勝した。地元関係では、エントリーメムズで3位に藤川さんが入賞した。
- ◆南三陸署は16日に塩釜市の会社員尾形拓哉容疑者(26)を、市内の新築工事現場でコンプレッサー1台を盗み、建造物侵入と窃盗容疑で逮捕した。
- ◆県が管理する気仙沼・本吉地方の海岸防潮堤の整備がまだ25%の進捗と、漁港施設は70%が完成している(16年度末)。
- ◆歌津の定置網にカラフトマスが入り、気仙沼魚市場に水揚げされた。
- ◆南三陸町は楽天球団とスポーツ振興と健全育成に、パートナー協定を21日に平成の森で締結する。
- ◆災害に強い地域づくりに、南三陸町立志津川中学校に「少年防火クラブ」が発足し、式には生徒244人と南三陸消防署・消防団・婦人防火クラブなど30人が出席し、防火団体の結束となった。
- ◆昭和35年5月24日のチリ地震津波襲来があり、津波の恐ろしさを後世にと南三陸図書館で

と衝突した。そのはずみで大谷郵便局の玄関にぶつかった。

気仙沼市は仮設商店街意向調査を行い、現在8地区に96店の事業所が入居している。そのうち再建未定は3割にものぼり、1割は退去後に「廃業」で、6割は「自立再建」と回答した。

◇気仙沼市は三日町に一軒家を活用した「こども」を開設し、子供の「学び」「遊び場」を誕生させた。子供たちの豊かな情操を育むため、美術や工作・ゲームなどに挑戦する場とする。見守りでの大人利用も歓迎している。

気仙沼市内の事業所の「企業立地補助」の交付前に7割が辞退をしていた。理由には人手不足などでの要件が満たせない事がある。2013年度始めた津波・原子力災害被災地雇用創出企業立地補助金(津波補助金)制度。気仙沼市の場合は大企業で3分の1～8分の1、中小企業で2分の1～6分の1以内。制度は水産加工業や製造業など、工場新設や物流施設などの立地に要する用地取得、建屋建設の一部に支援する。

◇気仙沼市の「海の市」のシャークミュージアムの再開から3年が経ち、再開の1年目には3万7417人の入場者だったが、前年比では1割が減少した。先月末には「氷の水族館」がオープンし、相乗効果が期待されている。

◇県が介護人材確保として、県内在住の外国出身者を対象に東北福祉大と連携して、介護福祉士養成講座をスタートした。国家資格の取得に1期生として、気仙沼市内の介護施設で働く女

「チリ津波資料展」が開催された。

- ◆南三陸町の3月31日までの人口あたりの高齢化率が「34.2%」と県が発表した。人口は1万3426人(昨年より291人減)で、高齢者人口は4598人と昨年より46人増加した。高齢者の人口区分として、65歳～69歳で1290人だった。気仙沼市は35.8%で県内7位、南三陸町が8位だった。最も高いのは七ヶ宿の46.4%だった。
- ◆5月にスタートした南三陸町の「キラキラウ二井」が人気を集め、さんさん商店街では昼食時には20人もの長い行列ができていた。ハマレ歌津でも1日30食限定で販売している。キラキラウ二井ののぼり旗のある飲食店では、2500～2700円(税込み)で提供している。

「ハマレ歌津」は開業1カ月を迎え、入り込み数が9万3300人だった。16年度は10カ月で1万人と9倍以上となった。統計をとった14年度の年間実績の6倍にもなる。4月23日のオープンから三陸道効果も後押しした。

- ◆志津川高校に震災風化防止への資料室に、空き室活用で整備。県内公立高校では初設置で、写真や映像モニターも展示。学校間交流、地域の防災学習などに活用する計画。

- ◆南三陸町への台湾からの教育旅行は、民泊や震災語り部が人気となっている。15年は3校から176人、16年は7校から172人が訪れている。23日には高校生74人が来町した。

- ◆南三陸町の歌津総合支所の完成にあたり「FSC認証」へ審査の手応えを感じている。「南三陸杉」のブランド力の強化を期待している。

- ◆南三陸町歌津番所の高橋才二郎さん(67才)は、行政相談員として東北管区行政評価局長表彰を受けた。

南三陸町の災害公営住宅の家賃請求が一部で遅れていた問題で、契約書類の不備や家賃の算定ミスが見つかり、すでに家賃が払われている全世帯に及ぶ可能性が出てきた。町では6月から職員5人を特別対策員として専従させる。全世帯の再策定を行なう。

- ◆南三陸町歌津の津龍院で28日、館寺俊明住職(42才)の就任を祝う晋山式と、本堂の落慶法要が行なわれた。

性6人が受講し、県が人手不足対策で今後サポートしていく。

気仙沼市の災害援護資金(世帯主が負傷したり住家や家財に損害を受けた世帯に最大で350万円を貸し付ける制度)が、本年度から据え置き期間も終了し返済が開始となる。貸付総額の総数は798件で18億6千万円、周知徹底を図り滞納防止に努めていく方針だ。2011年は最多の261件で6億2300万円を貸し付けた。

◇市税収入が2016年度は約64億9千万円で、10年度実績比の99.1%までに回復した。建設中心に法人税が伸び、住宅再建の固定資産税の伸びを受け震災後最高の税収となった。好調だった「たばこ税」は6億2900万円で、1790万円(2.8%)減少した。

◇16年度高卒者の就職率が5年連続100%を達成した。(ハローワーク気仙沼管内)110人が地元企業を選択した。

◇気仙沼市立中学校長会は、不祥事の根絶を誓い、気仙沼市齋藤教育長に決意表明を手渡した。

◇気仙沼製氷冷凍組合は外国人実習生の受け入れ体制充実へ。10月までには10事業所96人に拡大する。

◇気仙沼信用金庫津谷支店職員の佐藤さんに、特殊詐欺を未然に防止したと気仙沼署が感謝状を贈った。

◇気仙沼市の被災事業者の拡充の補助金制度が件数・金額とも倍増している。仮設住宅から本設に移行の補助限度額のかさあげ、仮設商店から再建の本格化にともない、昨年度の交付は21件5500万円と倍増した。